

神河町議会のあり方ゼミナール 第2ステージ（第3日目）

これまでの流れ

第1日目「議会議員の定数・活動量・報酬をどう考えるか」

第2日目「議員になるとしたら？町の課題とマニフェスト（選挙公約）」

今日のテーマ「公約を実現するための方法」 & 「町長対談に向けた相談」

進め方

1. はじめに

2. 少しだけレクチャー

「地方議員が公約を実現する道すじー議会から政策を動かす具体的アクション」

- (1) 地方議員の基本的な役割と限界の再確認
- (2) 政策実現に向けたプロセス全体像
- (3) 具体的な政策実現アクション
- (4) 実現の鍵となる「タイミング」と「言語化」の技術
- (5) 実例紹介：公約を政策実現につなげた議員の事例

3. 公約 & マニフェスト見直しワーク

テーブルの議員さんたちと、公約・マニフェストの実現方法について相談してください。

チェックポイントは以下です

- (1) 公約をもっと具体化できるか。どんな制度でどう予算化するかがイメージできるか
- (2) 役場職員の方々にその気になって真剣に取り組んでもらうためにはどうしたらいいか
- (3) 役場以外の町民の皆さんの力を、どう借りればいいのか

4. 町長との対談の相談

「町長とどんな話し合いができるかよい？」

考えるヒント

- (1) 町の現状認識をそろえる | 課題はなに？重視している現状分析は？
- (2) ビジョンや優先順位を知る | 注力している政策、次の任期でやる新しいこと
- (3) 町の仕組みや財源の実態 | 財源的な制約はどんな？町の裁量で使えるお金の額
- (4) 町長と議会の関係はどう | 議会にどんな期待を？政策実現上の議会との協力
- (5) 提案や対話のスタイル | 聞いてよかったと思える提案 町民の声を聞く工夫
- (6) 公約作成に活かせる対話 | 町長の公約・反省と工夫 公約実現で大変だったこと

5. 当日の作戦会議

6. まとめ

「地方議員が公約を実現する道すじ — 議会から政策を動かす具体的アクション」

第1章: 地方議員の基本的な役割と限界の再確認

「地方議会議員って、何ができるの？できないの？」

■はじめに:

まず、そもそも地方議員にはどんな役割が期待されていて、どんなことができ、どんなことができないのか。この「基本」からスタートしましょう。

議員さんの中には、「議員なんだから、もっとこうしてほしい」と言われる方もいますし、また逆に、「そんなのは市長や町長が決めることだから、私は関係ない」と割り切ってしまう議員さんもいらっしゃいます。ここがなかなか難しいところ。

制度的に見ると、議員は「できること」と「できないこと」が明確に分かれています。これは「二元代表制」という仕組みが関係しています。

■ポイント①: 二元代表制とは？

地方自治は「二元代表制」です。これは、首長（市長・町長など）も住民から直接選ばれるし、議員も住民から直接選ばれるという意味です。ですので、国会の「議院内閣制」と違って、議会が首長を選ぶわけではないし、首長の指示のもとで議会が動くわけでもありません。議会と首長は、それぞれが独立した存在ということになります。

それでも、同じ自治体という枠組みの中において、それぞれ違う仕事をしているパートナーという位置づけであるというのが、二元代表制のポイントになります。

■ポイント②: 議員の役割は「3つの柱」

地方議員の主な役割は、よく以下の3つで表されます。

1. 議決権：条例や予算などを議決する。いわば意思決定に参加する役。
2. 監視・チェック権限：行政がちゃんとやってるか、無駄な支出がないか、住民のためになっているかを確認する。
3. 政策提案・住民の声の代弁：住民の声を行政に届け、必要があれば政策提案を行う。

つまり、議員は直接行政を動かすことはできないけれども、行政が動くように仕向けることはできるという仕組みになっているのです。

■ポイント③: 限界の認識が実現力を高める

だからこそ大事なのが「自分の公約をどう行政に届け、行政が動かざるを得ない状況をつくれるか」ということになります。議員がやりたいことをやるには、

- ①予算化されること（執行部がOKしないと無理）
- ②事業として組み込まれること
- ③住民の支持と議会内の支持が得られること

といった複数の条件を満たす必要があります。

このことを「戦略を練るための出発点」として理解しておくことが、公約実現の第一歩となります。

第2章:政策実現に向けたプロセス全体像

「公約を実現するには、どんな道のりをたどるのか」

■はじめに

では、あなたが選挙で掲げた公約やマニフェストを、「言いつばなし」ではなく、実際に形にするためにはどうすればよいでしょうか？

まず最初に必要なのは「政策実現のプロセスを、構造的に理解すること」です。

■プロセスは、大きく分けて5つのステップ

1. 課題の再確認と情報収集

- 選挙時に掲げた公約が今も妥当なのか？その政策に実際どのくらいのニーズがあるか？など、ひとりよがりな政策になっていないかの検証が必要です
- 住民の声や、統計・既存の計画（自治体の総合計画など）との整合性も大切です

2. 行政への提案準備

- 自分の思いやスローガンではなく「事業化しうる政策案」に落とし込む必要があります
- 他の自治体の事例や試算等を添えると、政策を行う行政（執行部）への説得力が増します

3. 議会での発信と問題提起

- 一般質問、委員会での質疑、議会だより等で話題にするとともに発信をします
- タイミングを見て「行政に検討を促す表現」をすると効果的です
(例:「〇〇の課題解決に向けてどのような議論が進められていますか?」など)

4. 行政との非公式協議・政策交渉

- 担当課との対話が大切です。ときに、首長・部長級との意見交換も必要です
- 単なる要望でなく、「実現可能な選択肢」をもって協議することが重要です

5. 議会内の支持を得て後押しする

- 他会派や他の議員の協力を得ることで「議会の声」として意見の価値を高めてください
- 住民からの請願や陳情を活用することも視野にいれましょう
- また、議会での決議に、附帯決議をつけて提出するなど手段として有効です

■補足:予算と計画のサイクルを味方につける

政策実現に強く関わるのが、「予算サイクル」と「行政計画の更新時期」です。

ここを知らないと、タイミングを外してしまって、話は聞いてもらえたとしても、「今年度は無理ですね」で終わってしまいます

例えば:

- 予算要求は前年の夏～秋にスタート
- 総合計画・実施計画の改定タイミングは5年～10年ごと
- 予算案が決まるのは12月～2月

→ つまり「議会質問で提起するなら、6月議会や9月議会が勝負」ということ

■まとめ

選挙で掲げた公約は「約束」であると同時に、「実現を模索するための方向を示すもの」です
ゴールにたどりつくためには「戦略」と「仲間」と「タイミング」が大切ってこと

第3章:具体的な政策実現アクション(状況別の行動) 「いつ、どこで、どう動く? 議員の戦術行動術」

■はじめに

ここまで、公約を政策として実現するための大まかな流れを確認してきましたが、ここからは、具体的に「実際にどこでどう動くのか」という具体論に入っていきます
議員の活動の場面は大きく3つ(議会・庁内・地域)に分かれます。

●A:議会内でのアクション

(1)一般質問

まず最も代表的なのが「一般質問」です。

ここは政策提案を行政に届ける最初のステージです。

たとえば、「高齢者の移動支援を充実させたい」という公約を掲げた議員なら…

「地域の高齢者の移動手段について、現状の行政の課題認識は？」

「他自治体のようなデマンド交通やバスチケット制度の導入について、検討の余地は？」

など、問いかけの形で「行政に検討のテーブルに載せてもらう」よう促します。

ポイントは「やってください」ではなく「検討していますか？」という形で、議事録に乗せることです

(2)委員会での質疑・情報要求

常任委員会では、行政の担当者とより深い議論が可能です

例えば、一般質問で出したテーマを委員会でさらに掘り下げたり、担当課と直接やりとりして情報収集することもできます。ここで「具体化の糸口」がつかめることもあります。

(3)条例案・附帯決議・意見書

条例の提案はハードルが高いですが、議決事項に「附帯決議」を付けることや、「意見書」を提出することなどは、比較的取り組みやすい方法です。例えば「〇〇

の制度拡充を検討することを求める」などの意見書を議会で可決させれば、執行部も無視できません。

●B:庁内でのアクション ~執行部への働きかけ~

(1)担当課との個別協議

政策実現のカギは「担当課が乗ってくれるかどうか」にかかっています。そのためには、行政職員と対話しながら「これなら動かせる」という形に整えていく必要があります。

→「費用はこれくらい」「他市町ではこういう効果があった」など、行政の担当職が、庁舎内で説得力をもって説明できる材料を揃えることが大切です

(2)首長や部長級との対話

場合によっては、首長との直接の意見交換や懇談の場も活用します。

その際は「あなたに反対したいわけではなく、協力したいんです」というスタンスが重要です。

キーワードは「共通の目標に向かっている」と伝えること。

●C:住民を巻き込む外部戦略

(1)住民との意見交換会

例えば、公約に関心のある市民を集めて「テーマ別の意見交換会」を開催するのも有効です
そこで出た声を、議会で取り上げたり、行政に渡す形にまとめて提出します

(2)SNS・メディア発信

議会での質疑内容や政策提案を分かりやすく発信することも、政策実現の後押しになります

行政も議員も「住民の関心が高い」政策には、より注目せざるを得ません。住民の関心を高めることが大切です

(3)請願・陳情

住民と連携し、議会に請願・陳情を提出してもらうという方法もあります。

これが議会で採択されれば、「議会の意思」として行政に届ける力が生まれます。

■まとめ

政策は、一人では実現できません。

議場、行政、住民…それぞれの舞台上で「複数の手段を戦略的に組み合わせる」ことが大切です。

第4章:実現の鍵となる「タイミング」と「言語化」の技術 「提案は“何を”言うかより“いつ、どう言うか”がすべて」

■はじめに：

さて、ここまでは「どんな行動があるか」を見てきました。でも、政策が通るかどうかは、実は「中身の正しさ」だけでは決まりません。全く同じ政策であったとしても、

- タイミングが早すぎれば「準備できてない」と言われ、
- 遅すぎれば「もう決まった後です」と言われ、
- 表現の仕方が拙ければ、「それはあなたの感情論ではないですか？」とか「独りよがりな意見じゃないか」等として捉えられてしまいます。

そこで、政策提案を“通す”ために重要な2つのスキルを解説します。

●前半:タイミング戦略 —「予算・計画・事務事業の時計を読む」

(1) 年間サイクルを押さえる

自治体には独自の「リズム」があります。
特に予算編成と行政計画の改定は大きな波。

月	行政の主な動き	議員が取るべき動き
6月～8月	来年度予算要求の検討	提案内容を事業化可能な形で提示
9月～11月	各課が予算要求をとりまとめ	一般質問や委員会で後押し
12月～2月	予算案の内示・確定	必要な附帯意見や修正動議
3月	予算案の審議・可決	条件付き賛成など交渉カードを

→つまり、提案するなら夏までが勝負。質問するなら9月議会。可決の前に仕掛ける。

(2) 行政計画の改定タイミングを狙う

- 総合計画（10年ごと）
 - 実施計画（毎年または3年ごと）
 - 分野別計画（例：子育て支援計画、環境基本計画など）
- これらの「見直し時期」に合わせて動けば、政策として盛り込まれるチャンスが格段に増します。

(3) 選挙・人事・事故・災害もチャンスになる

- 首長や議員選挙直後 → 「新しい方向性を示したい」という空気
 - 部長交代や新任課長就任時 → 「新しい提案を受け入れやすい」
 - 地元で課題が顕在化したタイミング → 「今なら皆が動かざるを得ない」
- 「波が来たときに、ボードを持って待ってられるか」が勝負です。

●後半:「言語化」の技術 — 行政が“動きやすい言い方”に整える

(1) “スローガン”ではなく“実施項目”に変換する

たとえば：

- ×：高齢者にやさしいまちに
 - ：外出支援サービスの導入（予算規模●万円）＋対象者は75歳以上＋実施主体は○○協議会
- 行政が「業務として設計できるレベル」まで落とし込む必要があります。

(2) 行政の「論理」に寄り添う言い方を

行政が動くときに必ず気にするのがこの3つ：

- ①法令・制度的根拠があるか
- ②公平性・継続性が担保できるか
- ③予算・人員との整合がとれるか

だからこそ、政策提案の際には「他市町事例がある」「国の補助制度が使える」「実施主体を行政以外に設定できる」などの材料を添えると、非常に通りやすくなります。

(3) 行政が「断りにくい」言い回しを使う

「検討していますか？」→ No と断りにくい

「住民からの声が多数あるが、どう対応していく予定か？」→ 無視できない
「近隣町では実現している中で、本町の課題は何か？」→ 比較されるのを避けたい心理

■まとめ:

政策を実現したいなら、“中身よりも順番と表現”が先。
「政策を通す議員は、提案するだけでなく、行政に“つくりたくさせる”人」

第5章:実例紹介:公約を政策実現につなげた議員の事例 「動かした人がいる。そのとき議員は何をしたか」

■はじめに:

ここまで、制度や技術、戦略を学んできました。
でも、「実際にそんなふうに政策って通るの？」と半信半疑の方もいるかも。
この章では、実際に地方議員が自らの公約を、現実の施策に変えた事例を3つ紹介します。
どれも、特別な力があつたわけではありません。地道に、でも戦略的に動いた結果です。

●事例1:若手議員が提案した「こども弁当事業」(人口8万人の中規模自治体)

▷背景と公約

- 選挙時に「子どもの貧困対策を強化します」と掲げて当選。
ただし、貧困対策は行政側からすると「抽象的」で、すぐには動きづらいテーマ。

▷議員の行動

- まず地域の子育て団体と連携して現状を調査(独自アンケート)
- 一般質問で「食事の支援」に絞って提起
- 他市町で行われていた「子ども宅食事業」や「こども弁当配達」を紹介しつつ、「民間団体が主体で、行政は配送費など一部補助」というモデルを提案
- 担当課に非公式に試算を依頼、制度設計のたたき台を協力して作成
- 翌年度予算案に「モデル事業」として盛り込まれ、地域の社会福祉協議会が実施主体に

▷ポイント

- 「抽象的な公約」→「具体的なサービス」へと翻訳
- 担当課に“共犯関係”をつくった
- 自分で全てやるのではなく、地域の民間団体を活用

◆事例2:市民請願から生まれた「歩道の段差解消事業」

(高齢化率40%超の小都市)

▷背景と公約

- 「安心して歩けるまちに」という公約。
- 選挙後、地域の高齢者団体から「歩道の段差が危ない」という声を受ける。

▷議員の行動

- 該当箇所を住民と一緒に歩いて調査
- 写真付きで「危険箇所マップ」を作成
- 高齢者団体に協力してもらい、請願書を作成・提出
- 本会議で採択され、「市として段差解消の優先リストを策定」という動きに
- 3か年で段差の解消が順次実施される

▷ポイント

- 「住民を巻き込んで議会を動かした」パターン
- 自らの公約に、住民の声を重ねて“後押し”にした
- 議会が採択すれば、行政は一定の説明責任を負うことになる

◆事例3:議会内での合意形成で生まれた「中学生向け無料塾」(地方都市、議員定数18)

▷背景と公約

- 「教育の機会格差を減らしたい」と公約。
- しかし行政の当初方針は「学校外教育には公費は出さない」という立場。

▷議員の行動

- 会派を超えて「学習支援をやりたい」という他の議員と情報交換

- 会派横断の勉強会を立ち上げ、議会内に理解者を増やす
- 委員会で「既存の予算の中でできる範囲から始めよう」と提案
- 結果、予算修正ではなく「予備費から試験的に支出」というかたちで実施開始
- 次年度には事業化され、委託方式で地元 NPO が実施

▷ポイント

- 自分一人で押すのではなく「議会を味方につけた」
- 「ゼロから新規予算」ではなく「既存の予算の中で実現可能性」を探った
- 他の議員と連携して説得力を増す手法は、特に少数派議員に有効

◆共通する成功要因とは？

1. 具体化された「事業提案」に落とし込んだこと
2. 執行部や議会内の「協力者」を得たこと
3. 「今、やるべき」という説得力(根拠やニーズ)を提示したこと

■まとめ:

政策実現は「一発逆転の勝負」ではなく、「地道な積み重ねの中で、風を読み、機を捉える」活動です。そしてなにより、実現した議員の多くが口を揃えて言うのが「自分一人で政策を動かしたわけじゃない。巻き込んだから実現した。」という言葉です。

第6章:まとめとアクションプランの作成 “政策を実現する議員”への第一歩を描こう

■講義シナリオ:

- これまで5つの章を通して、
- 議員の制度上の立ち位置
 - 政策を通すためのプロセス
 - 具体的な行動
 - タイミングと伝え方
 - 成功事例

…を見てきました。

ではこの章では「では、自分は明日から何をするか？」を考える時間にします。学んだことを、自分自身のアクションプランに変えることがこのレクチャーのゴールです。

◆ふりかえり:自分の公約を見直す

まず、ご自身が掲げた公約やマニフェストをあらためて見てみましょう。

以下のような観点からチェックしてみてください。

- その公約は、「具体的な事業や制度」に落とし込めるか？
- 「誰のために」「どの課で」扱うテーマか、明確か？
- 行政のどの計画・予算に関係していそうか？

◆ワーク:公約を「実行可能な政策提案」に変換してみる

項目	記入例（高齢者外出支援）
公約の原文	高齢者の移動支援を拡充
実現したいこと（目的）	外出機会の確保、健康増進
具体的なサービス・制度案	週1回のデマンド交通、福祉タクシー券の発行
対象者	75歳以上、免許返納済の人
担当部署	高齢福祉課、地域交通課
関連する他市町の事例	〇〇町のシルバーパス制度
自分が使える手段（議会内）	一般質問、委員会質問、意見書
自分が使える手段（議会外）	市民との勉強会、NPOとの連携、SNSでの周知
提案に適したタイミング	6月：次年度予算要求前、9月：中間見直し時期
誰を巻き込むか	市内の老人会、地域包括支援センター、他議員など

◆行動宣言タイム:これからやることを明文化する

最後に、自分自身に対する「宣言」を書いていただきます。

これは他人に発表するためではなく、行動を現実近づけるための第一歩です。

例：

- 「次の一般質問で〇〇を取り上げるため、来週担当課と打ち合わせをする」
- 「7月に〇〇団体と懇談の場をつくり、ニーズを再確認する」
- 「10月までに、政策提案書を作成して執行部に提示する」

必要であれば、ワークシートをコピーして持ち帰り、後日更新してもOKです。

このアクションプランは、あなたが“やるべきこと”ではなく、“やりたいからやること”です。

■クロージングメッセージ

政策を実現する議員とは、特別な能力を持った人ではありません。動く順番を知っている人、言葉の使い方を工夫している人、そしてあきらめない人です。今日の学びが、これからの活動の中で、何かひとつでも活かされれば、それは「ひとつの公約が実現に一步近づいた」ということです。

あなたの政策が、まちの未来をひとつ変えることを、心から期待しています。

公約	スマイル倍増計画
マニフェスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人パワーの活用 ・ 子ども×高齢者のコラボ ・ （学校）コミュニティスクール ・ 多世代交流の場（コミュニティ） ・ 神河町長杯 全世代グランドゴルフ大会（地域自治協議会で） ・ 地域を活発に！ ・ お見合い計画 ・ 子育てのしやすさをアピール ・ おせっかいおばちゃん ・ お米の配給が続けられるように

公約	高齢者が（1人でも）安心できる町
マニフェスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の町営住宅などのリソースを活用して高齢者の住まいを確保する ・ 移動販売車の運行を増やす ・ ドア to ドアのバス運行をする

公約	私たちは自然の中で生きていく ～ネイチャーオープンキャンパス～
マニフェスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ おばあちゃんの知恵袋を学べる場をつくる ・ ボランティアを集め、山を整えながら材木を有効活用する